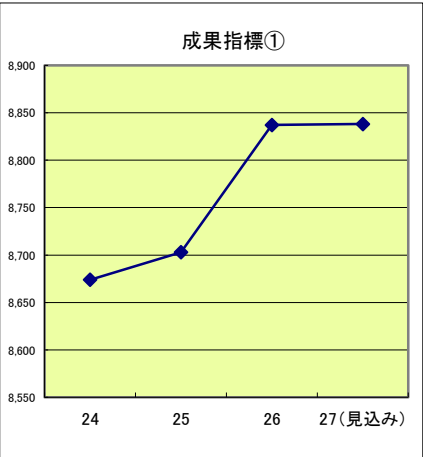
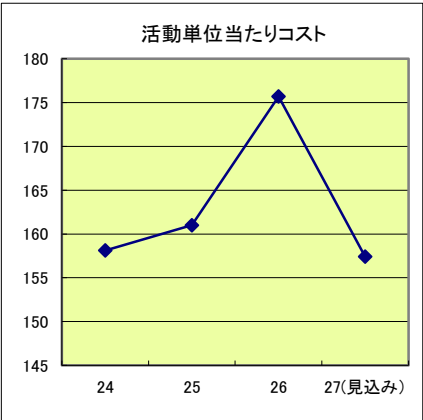


事務事業名			図書館管理運営事業		予 算 科 目	会計 1	一 般 会 計	
総合基本計画	まちづくりの目標(章)	4	魅力ある地域社会を拓く活力あるまち			款 10	教育費	
	施策(節)	3	生涯学習			項 5	社会教育費	
	施策の方向	(3)	図書館活動の充実			目 9	図書館運営費	
関連する計画等			・羽曳野市子ども読書活動推進計画、・羽曳野市子ども夢プラン		事業 8	図書館総合運営		
事業の概要(目的・内容)			・図書館では、多様な資料や情報を収集して地域住民の皆様の課題解決を支援し、地域を支える情報拠点として事業を推進している。業務内容は、資料提供を中心に蔵書管理、資料収集、リクエストサービス、レファレンスサービス(読書相談)、児童サービス、障がい者サービス、学校図書館支援事業、各種集会文化活動(講座・講演会等)、利用啓発(資料展示)、図書館関係団体への援助・連携、ステーションライブラリーや森のゆうびん局の運営、広域貸出サービス等を行っている。					
根拠法令等			社会教育法、図書館法、子どもの読書活動の推進に関する法律、文字・活字文化振興法					
事業期間			☒ 10年以上 ☐ 5年以上10年未満 ☐ 5年未満(平成 年度開始)					
事業開始時からの状況変化			昭和28年府立ブックステーションとしてスタートし、平成元年コンピュータシステムを導入。現在6館1ブックステーションでのサービス並びに、10市による広域貸出を行っている。					
実施手法			☐ 直営 ☒ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ 補助金・助成金 ☐ その他()					
委 託 先			☒ 市外郭団体委託 名称(羽曳野市施設管理公社)		委託内容	図書館業務委託		
			☐ 民間委託 ☐ その他					

区 分		24年度 (実績)	25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度 (見込み)
事業費【1】 (千円)		50,701	51,679	53,419	41,375
人件費【2】 (千円)		113,524	106,624	110,727	108,172
職員数	正規職員	6.00 人	5.00 人	4.59 人	4.59 人
	再任用職員	0.84 人	0.84 人	3.80 人	3.80 人
	嘱託職員	21.00 人	21.00 人	21.00 人	18.00 人
	臨時職員・非常勤職員	9.40 人	9.40 人	9.42 人	10.35 人
超過勤務(参考) (時間)		3.00 時間	0.00 時間	0.00 時間	0.00 時間
総事業費(【1】+【2】)【A】 (千円)		164,225	158,303	164,146	149,547
財源内訳	国庫支出金 (千円)				
	府支出金 (千円)		3,209	3,962	3,099
	市債 (千円)				
	その他(使用料・手数料等) (千円)				
一般財源【B】 (千円)		164,225	155,094	160,184	146,448
活動指標 (事業の活動実績)【C】		24年度	25年度	26年度	27年度 (見込み)
① 年間個人貸出冊数	冊	1,038,588	983,280	934,237	950,000
② 年間団体貸出冊数	冊	46,043	50,388	50,921	51,000
活動単位当たりコスト (【A】÷【C】①)		158 円	161 円	176 円	157 円
活動単位当たり一般財源額 (【B】÷【C】①)		158 円	158 円	171 円	154 円
市民1人当たりコスト (【A】÷人口)		1,403 円	1,359 円	1,421 円	1,304 円
一般財源【B】の推移(前年度比)			▲ 5.6 %	3.3 %	▲ 8.6 %
※前年度比5%以上変動している要因(該当する場合のみ✓)		☐ 1. 制度改正・事業の見直しなど ☐ 2. 左記1によらない対象件数などの増減			
		☒ 3. 物価・賃金水準などの変動 ☐ 4. 国庫支出金など特定財源の増減			
※該当項目すべてに✓		☐ 5. その他()			



成果指標 (事業の達成度)	指標名		単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	① 市民一人当たりのサービス効果	(式又は説明) 購入図書平均単価×貸出冊数-図書館費÷人口	円	目標	9,111	8,675	8,710
				実績	8,674	8,703	8,837
	② 貸し出しサービス指標	(式又は説明) 購入図書平均単価×貸出冊数÷図書館費×100	円	目標	670	693	699
				実績	692	698	691

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある	有
	○	○						○		

分析・評価	視点	分析のためのチェック点	はい	いいえ	該当なし	分析・評価の説明
	妥当性	市民ニーズが高い（事業の拡充・継続の要望がある、又、活動指標が増加傾向にあるなど）	☒	☐	☐	図書館は、子どもからお年寄りまで、だれでも気軽に資料を利用できる機会を補償することにより、豊かな人間形成の創造に寄与する施設であり、市が設置することは妥当である。
		市民ニーズと比較してサービスの対象範囲や水準が適切か	☒	☐	☐	
		他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない	☒	☐	☐	
		事業を縮小、又は廃止・休止した場合の影響度が大きい	☒	☐	☐	
	効率性	活動単位あたりコストが適切である（経年比較など）	☒	☐	☐	・市民一人当たり8冊を超える貸出がなされており、コストも抑えられている。 ・他府県からの資料の取り寄せは、受益者負担で行っている。 ・開館の状況に合わせた人員体制である。
		使用料・手数料等の受益者負担の割合は適当である	☒	☐	☐	
		人員を削減する余地がない	☒	☐	☐	
		事業費を削減する余地がない	☒	☐	☐	
		国・府の事業や市の他事業と重複していない	☒	☐	☐	
		市の他事業との統合や、事業の簡略化の余地がない	☒	☐	☐	
		民間活力（民間委託、NPO・ボランティアなど）の活用について検討の余地がない（すでに活用しており、拡大の余地はないを含む）	☒	☐	☐	
	協働性	事業の企画や実施にあたり、市民の意見を反映しているか、又、参加、協力が得られているか	☒	☐	☐	各種ボランティア団体との協働により、図書館サービスを提供している。
	有効性	成果指標の実績値は目標値以上である	☒	☐	☐	図書館の情報提供機能により、地域住民の課題解決に寄与し、有効性が高い。
	達成度	成果指標は前年度より向上している	☒	☐	☐	前年度より向上している。

担当 部局 評価	総合評価			
	☒ 継続	☐ 改善	☐ 縮小	☐ 廃止・休止
	(概ね現行どおり継続して実施)	(実施方法の改善を検討する)	(事業規模の縮小を検討する)	(廃止・休止を検討する)
	今後に向けて(取組方針・具体的な改善改革案など)			
	・平成27年度中に、図書館コンピューターシステムの更新に向けての作業を進め、平成28年度には新システムでより効率よく安定したサービスを進めていく。 ・より幅広くサービスを展開していくためにも、職員を中心とした組織集団の形成に努める。			
行 革 本 部 評 価	総合評価		評価理由・意見	
	☐ 継 続 ☐ 改善 ☐ 縮 小 ☐ 廃止・休止			